

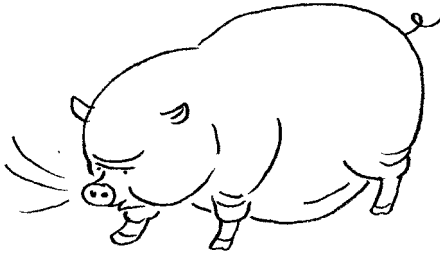
史上最大の豚

天高く馬肥ゆる秋。という形容には、何となく軍国主義のイメージがつきまとう。一億、飢えを忘れた当節では、平和的に、「天高く豚肥ゆる秋」とでも言い換えるべきか？

世界中のまじめな記録、珍奇録のあれこれを集めて有名な『ギネス・ブック』によると、これまでに確認された豚のうちで、史上最高、もつとも太りに太った豚は、アメリカはテネシー州、ジャクソンという町の、ウエルズさんという人が飼っていた「ビッグ・ビリー」という豚だった。

この豚、千百五十七キロという超弩級。一九三三年にダウンしたが、太りすぎのため、常に地面に腹をつけていたとか。

ちなみに、同ブックで馬の最重量記録を調べたら、何と一九二八年に千四百五十キロというつわものがいたことが確認されているので、天高く肥えるのはやはり馬の方かもしれないが、豚の赤ん坊は生まれた時の体重は、せいぜい一・二キロから一・四キロ、馬のほうは八十〜九十キロもある。だから、



その後の肉の付きぐあいからみれば “天高く豚肥ゆる” は、まさに数学的な真理といえる。

ついでに、豚の成長率がいかにすばらしいか、たとえば豚の赤ん坊は、生後わずか一週間ほどで、生まれたときのざつと二倍ぐらいの体重にふくれ（？）上がるといわれる。

そして、メス豚なら生後四、五か月、おそくても六、七か月になると、発情期を迎え、以後、四、五年以上にわたり十回以上のお産が可能だということから、人間などの太刀打ちできるところではない。生後六、七か月で赤ん坊が産めるようになる豚は、生まれて八週間目ぐらいが離乳期に当たるが、一九六二年七月、イギリスのケトル・レーン農場で生まれた子豚は、離乳期の生後八週間目に、なんと三六・七キロの体重を記録した。これを“豚々拍子”という。